

米国農務省穀物等需給報告(2023 年7月 12 日発表のポイント)

令和5年7月13日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、7月12日(現地時間)、2023/24年度の3回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

ー2023/24年度の穀物の生産量は消費量を上回る見込み

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み) (※↑↓は前月見通しからの増減)

- ① 生産量: 28億3,081万トン(対前年度比 3.1%増) ↓
- ② 消費量: 28億2,044万トン(対前年度比 1.8%増) ↑
- ③ 期末在庫量: 7億7,667万トン(対前年度比 1.4%増) ↓
期末在庫率: 27.5%(対前年度差 0.1ポイント減) ↓

【主な品目別の動向】

小麦 : 世界の生産量は、米国で特に冬小麦の生産量が引き上げられたものの、EU やカナダの主産地での乾燥の影響により生産量が引き下げられたこと等から下方修正されたが、史上最高となる見通し。世界の消費量は、収穫期における河南省での豪雨により小麦の品質が低下した中国で飼料向け需要等の増加により、前年度から増加する見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。また、ウクライナの生産量、輸出量は前月から変更なく、前年度より減少する見通し。

- 1 生産量: 7億9,667万トン(対前年度比 0.8%増) ↓ …インド、アルゼンチン、EU、米国、中国等で増加、豪州、ロシア、ウクライナ、カザフスタン等で減少(前月に比べ米国で上方修正、EU、カナダ、アルゼンチンで下方修正)
- 2 消費量: 7億9,945万トン(対前年度比 0.8%増) ↑ …中国等で増加(前月に比べ中国で上方修正)
- 3 期末在庫量: 2億6,653万トン(対前年度比 1.0%減) ↓ …インド等で増加、ロシア、EU等で減少(前月に比べ中国、ロシアで下方修正)
期末在庫率: 33.3%(対前年度差 0.6ポイント減) ↓

とうもろこし : 世界の生産量は、米国コーンベルトにおける6月の乾燥の影響は7月上旬の降雨により緩和され、単収は引下げも収穫面積の引上げから、前月から上方修正され、史上最高となる見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度を上回る見通し。また、ウクライナの生産量、輸出量はいずれも前月から上方修正されたが、前年度より減少する見通し。

- 1 生産量: 12億2,447万トン(対前年度比 6.4%増) ↑ …米国、アルゼンチン、EU、中国等で増加、ブラジル、ウクライナ等で減少
- 2 消費量: 12億665万トン(対前年度比 3.6%増) ↑ …米国、中国、EU、エジプト、ブラジル等で増加
- 3 期末在庫量: 3億1,412万トン(対前年度比 6.0%増) ↑ …米国等で増加
期末在庫率: 26.0%(対前年度差 0.6ポイント増) ↑

コメ(精米) : 世界の生産量は、米国の主にカリフォルニア州で中・短粒種の生産量が前年の干ばつの影響から回復すること等から前月から上方修正され、史上最高の見通し。世界の消費量は、ベトナム等で上方修正され史上最高となる見通し。世界の生産量は消費量を下回り、期末在庫量は前年度を下回る見通し。

- 1 生産量: 5億2,077万トン(対前年度比 1.6%増) ↑ …パキスタン、中国等で増加、インドで減少
- 2 消費量: 5億2,391万トン(対前年度比 0.5%増) ↑ …中国等で減少
- 3 期末在庫量: 1億7,042万トン(対前年度比 1.8%減) ↑ …インド等で減少
期末在庫率: 32.5%(対前年度差 0.8ポイント減) ↑

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

世界の生産量は、カナダで収穫面積の引上げも、米国で収穫面積の引下げから生産量が下方修正されたものの、史上最高となる見通し。世界の消費量は、中国等で増加することから前年度を上回る見通し。世界の生産量は消費量を上回り、期末在庫量は前年度を上回る見通し。

- 1 生産量: 4億531万トン(対前年度比 9.6%増) ↓ …アルゼンチン、ブラジル等で増加(前月に比べ米国で下方修正)
- 2 消費量: 3億8,451万トン(対前年度比 6.0%増) ↓ …アルゼンチン、中国、ブラジル、米国等で増加
- 3 期末在庫量: 1億2,098万トン(対前年度比 17.6%増) ↓ …ブラジル、アルゼンチン等で増加
期末在庫率: 31.5%(対前年度差 3.1ポイント増) ↓

世界の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2023年7月12日発表)

【穀物】

(単位：百万トン)

項目	年度	2021/22	2022/23 (見込み)	(予想)	2023/24		(参 考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		2,799.78	2,745.50	2,830.81	3.1%	▲ 3.2	2,296.0
消費量		2,802.23	2,771.31	2,820.44	1.8%	2.4	2,284.7
期末在庫量		792.10	766.29	776.67	1.4%	▲ 4.3	481.6
期末在庫率		28.3%	27.7%	27.5%	▲ 0.1	▲ 0.2	21.1%
小麦							
生産量		781.05	790.20	796.67	0.8%	▲ 3.5	660.8
消費量		792.52	793.49	799.45	0.8%	3.3	680.3
期末在庫量		272.60	269.31	266.53	▲ 1.0%	▲ 4.2	181.8
期末在庫率		34.4%	33.9%	33.3%	▲ 0.6	▲ 0.7	26.7%
粗粒穀物							
生産量		1,504.99	1,442.81	1,513.38	4.9%	0.1	1,159.1
消費量		1,491.08	1,456.45	1,497.08	2.8%	▲ 1.1	1,139.5
期末在庫量		337.06	323.42	339.72	5.0%	▲ 0.3	175.7
期末在庫率		22.6%	22.2%	22.7%	0.5	▲ 0.0	15.4%
とうもろこし							
生産量		1,218.70	1,150.68	1,224.47	6.4%	1.7	898.8
消費量		1,201.90	1,164.26	1,206.65	3.6%	0.3	877.4
期末在庫量		309.88	296.30	314.12	6.0%	0.1	144.8
期末在庫率		25.8%	25.4%	26.0%	0.6	0.0	16.5%
コメ(精米)							
生産量		513.74	512.49	520.77	1.6%	0.3	476.1
消費量		518.63	521.37	523.91	0.5%	0.1	464.9
期末在庫量		182.44	173.56	170.42	▲ 1.8%	0.2	124.1
期末在庫率		35.2%	33.3%	32.5%	▲ 0.8	0.0	26.7%

【大豆】

項目	年度	2021/22	2022/23 (見込み)	(予想)	2023/24		(参 考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		360.12	369.72	405.31	9.6%	▲ 5.4	269.0
消費量		363.84	362.84	384.51	6.0%	▲ 1.6	265.4
期末在庫量		99.14	102.90	120.98	17.6%	▲ 2.4	58.3
期末在庫率		27.2%	28.4%	31.5%	3.1	▲ 0.5	22.0%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(July 12, 2023)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / 消費量

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)、コメ(8～7月)、大豆(9～8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。

なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考)は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、 「PS&D」 については、公表された最新のデータを使用している。

米国の穀物・大豆の需給動向

(米国農務省2023年7月12日発表)

【穀物】

(単位：百万トン)

項目	年度	2021/22	2022/23 (見込み)	(予想)	2023/24		(参 考) 2012/13
					前年度比 (期末在庫率は 「前年度差」)	前月差	
全体							
生産量		448.60	408.46	458.24	12.2%	4.8	353.0
消費量		360.73	352.23	360.57	2.4%	1.2	317.1
輸出量		94.82	66.92	82.19	22.8%	0.7	51.6
期末在庫量		57.85	54.60	77.42	41.8%	0.8	44.2
期末在庫率		12.7%	13.0%	17.5%	4.5	0.1	12.0%
小麦							
生産量		44.80	44.90	47.33	5.4%	2.0	61.3
消費量		29.76	30.79	30.81	0.1%	0.6	37.8
輸出量		21.66	20.65	19.73	▲ 4.5%	-	27.5
期末在庫量		19.01	15.79	16.12	2.1%	0.8	19.5
期末在庫率		37.0%	30.7%	31.9%	1.2	1.3	29.9%
粗粒穀物							
生産量		397.71	358.47	404.53	12.8%	2.5	285.3
消費量		326.22	316.68	324.84	2.6%	0.6	275.5
輸出量		70.52	44.27	59.92	35.4%	0.5	20.7
期末在庫量		37.58	38.00	60.37	58.9%	▲ 0.0	23.5
期末在庫率		9.5%	10.5%	15.7%	5.2	▲ 0.1	7.9%
とうもろこし							
生産量		382.89	348.75	389.15	11.6%	1.4	273.2
消費量		317.09	306.85	314.59	2.5%	-	263.0
輸出量		62.80	41.91	53.34	27.3%	-	18.5
期末在庫量		34.98	35.60	57.45	61.4%	0.1	20.9
期末在庫率		9.2%	10.2%	15.6%	5.4	0.0	7.4%
コメ(精米)							
生産量		6.08	5.09	6.38	25.3%	0.3	6.3
消費量		4.76	4.76	4.92	3.4%	0.0	3.8
輸出量		2.65	2.00	2.54	27.0%	0.2	3.4
期末在庫量		1.26	0.81	0.94	16.0%	▲ 0.0	1.2
期末在庫率		17.0%	12.0%	12.6%	0.6	▲ 0.7	16.1%

【大豆】

項目	年度	2021/22	2022/23 (見込み)	(予想)	2023/24		(参 考) 2012/13
					前年度比	前月差	
生産量		121.53	116.38	117.03	0.6%	▲ 5.7	82.8
消費量		62.92	63.69	66.01	3.6%	▲ 0.3	48.6
輸出量		58.57	53.89	50.35	▲ 6.6%	▲ 3.4	36.1
期末在庫量		7.47	6.95	8.16	17.4%	▲ 1.4	3.8
期末在庫率		6.1%	5.9%	7.0%	1.1	▲ 0.9	4.5%

資料：米国農務省「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(July 12, 2023)

「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS&D」

注：1) 穀物全体は、小麦、粗粒穀物、コメ(精米)の計。なお、各品目の計が全体の数値と合わない場合がある。

2) 小麦は、小麦及び小麦粉(小麦換算)の計。

3) 期末在庫率(%) = 期末在庫量 × 100 / (消費量 + 輸出量)

4) 年度のとり方は、品目及び地域により異なる。[例えば、米国では、小麦(6～5月)、とうもろこし(9～8月)、コメ(8～7月)、大豆(9～8月)]

5) 在庫率の前年度比及び前月差の欄は、前年度及び前月発表とのポイント差。
なお、表示単位以下の数値により計算しているため、表上では合わない場合がある。

6) (参考) は、価格高騰の原因となった2012/13年度の需給について掲載。

7) なお、「Oilseeds: World Markets and Trade」、「PS&D」については、公表された最新のデータを使用している。

(参考 1)

世界の穀物等の価格動向 (2023 年)

● 小 麦 : 6.40 ドル/bu (前年同時期の価格 : 8.31 ドル/bu)

【価格は、シカゴ商品取引所における 2023 年 7 月第 1 週末のセツルメント価格。史上最高値 : 14.25 ドル/bu(2022 年 3 月 7 日)】

【1 月～3 月】

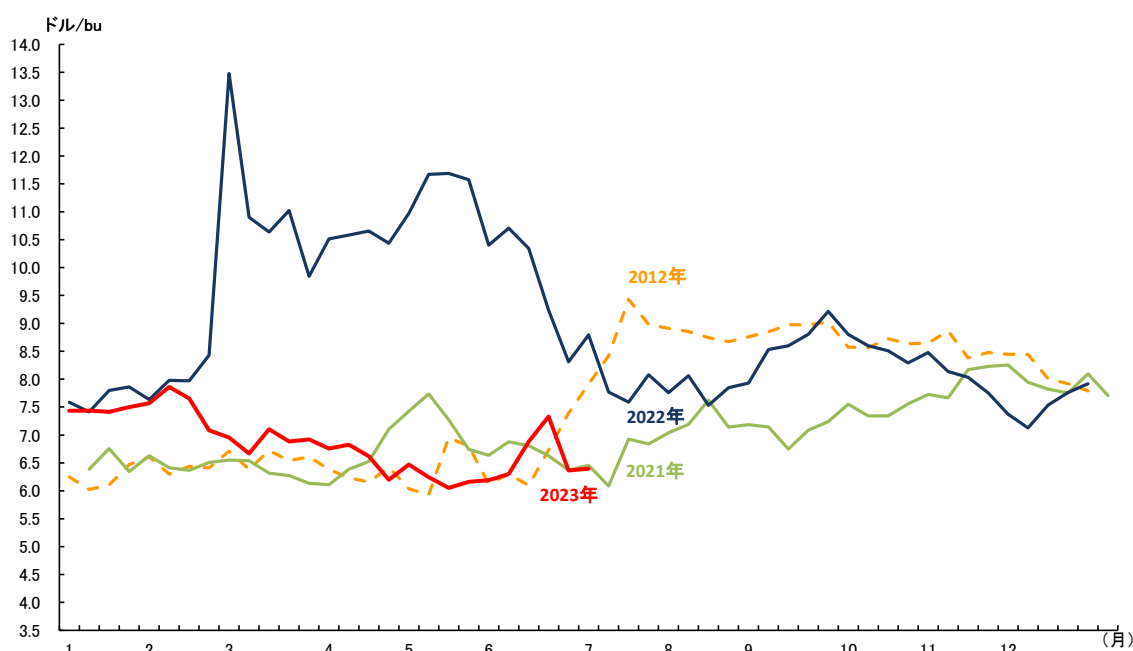
2 月上旬まで、ロシア、ウクライナ等からの供給増加等の一方、米国産冬小麦の乾燥による作柄悪化懸念から 7 ドル/bu 台前半から半ばで推移。2 月半ば以降、黒海経由のウクライナ産穀物輸出の先行き懸念等から 7 ドル/bu 台後半に値を上げたものの、3 月上旬にかけて、ドル高や米国産のロシア等の黒海産との競合、乾燥が続いていた米国プレーンズでの降雨、米国産の低調な輸出、黒海経由のウクライナ産穀物輸出を巡る合意の再延長見通し等から 6 ドル/bu 台半ばに値を下げた。3 月半ばには、同合意の再延長を巡る不透明感から 7 ドル/bu 台前半に値を上げたものの、同月 18 日の合意再延長から 6 ドル/bu 台半ばに値を下げた。その後、乾燥天候による米国産冬小麦への影響懸念等から、6 ドル/bu 台後半に値を上げた。

【4 月以降】

4 月に入り、米国主要小麦産地での天候改善予報や、低調な輸出需要等から 6 ドル/bu 台半ばに値を下げた。その後、ポーランド等がウクライナ産のトランジット(通過)を含め輸入を規制したこと等から 6 ドル/bu 台後半に値を上げたものの、乾燥が続いている米国プレーンズでの降雨予報等から 6 ドル/bu 台前半に値を下げた。

5 月に入り、米国中西部東部の冬小麦の良好な作柄等から、6 ドル/bu 台前半で推移したものの、黒海経由でのウクライナ産穀物の輸出期間を巡る合意の不透明感や、米国プレーンズでの干ばつによる冬小麦の減産懸念のほか、米国農務省需給報告で 2023/24 年度の米国期末在庫量が予想を下回ったことから、5 月半ばに 6 ドル/トン台半ばに値を上げた。その後、黒海経由での穀物輸出の延長合意や低調な輸出需要から値を下げ、5 月末現在、5 ドル/bu 台後半で推移。

6 月に入り、中国河南省の豪雨被害や、ウクライナのダム決壊等から 6 ドル/bu 前半で推移。6 月中旬から、EU の乾燥天候による減産懸念や米国産冬小麦生産地での降雨による収穫遅延を受け 7 ドル/bu 台前半に値を上げたものの、北半球における冬小麦の収穫進展、米国の作付面積予測が市場予想を上回ったことから値を下げ、6 月末現在、6 ドル/bu 台前半で推移。



注:シカゴ商品取引所の各週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移。

● とうもろこし：5.61 ドル/bu （前年同時期の価格：7.54 ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における 2023 年 7 月第 1 週末のセツルメント価格。史上最高値：8.31 ドル/bu(2012 年 8 月 21 日)】

【1 月～3 月】

原油相場の下落や世界的な景気減速等から 6 ドル/bu 台半ばで推移したものの、1 月中旬に米国産の輸出需要増やアルゼンチンの乾燥天候予測等から 6 ドル/bu 台後半に値を上げた。

2 月中旬にかけアルゼンチンの高温・乾燥による減産懸念やブラジル大豆収穫遅れに伴う冬とうもろこしの作付け遅れ、ロシアとウクライナの戦闘激化による黒海経由のウクライナ産穀物輸出の先行き懸念等から 6 ドル/bu 台後半で推移したものの、3 月上旬には米国農務省農産物展望会議での供給拡大予想や、ドル高、米国産の輸出需要の減少懸念等から 6 ドル/bu 台前半から半ばで推移した。

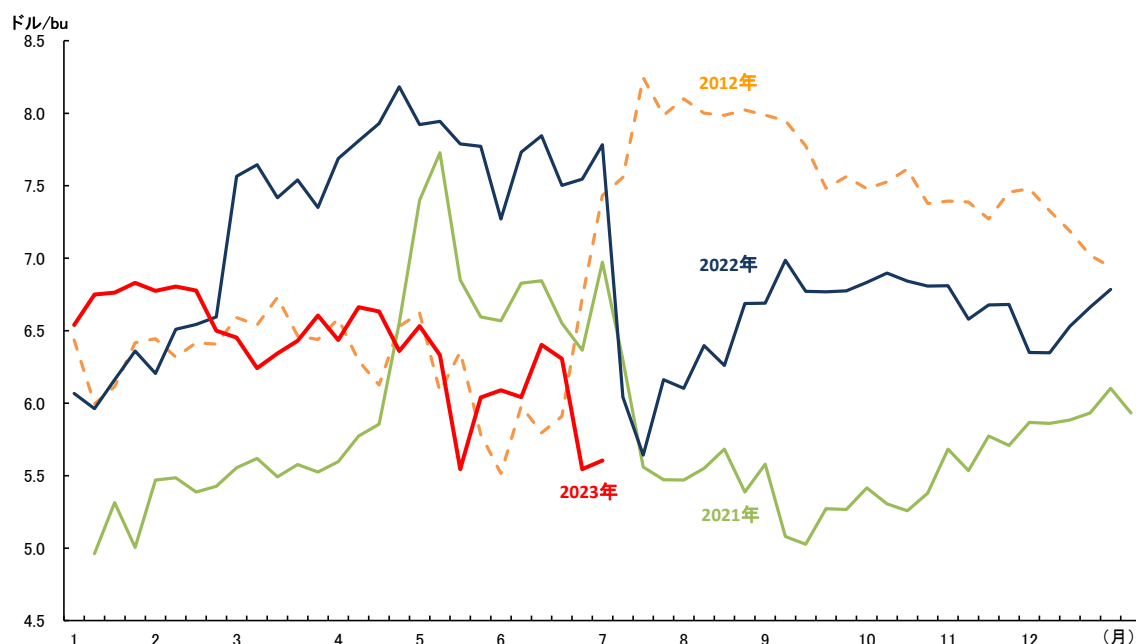
その後、3 月中旬から同月下旬にかけて米国産の低調な輸出状況や USDA 3 月需給報告での予想を上回る米国の在庫量から 6 ドル/bu 台前半で推移したものの、3 月末に向けて、アルゼンチンの高温・乾燥による減産懸念や、黒海経由のウクライナ産穀物輸出を巡る合意の再延長をめぐる不透明感、米国産の中国向け輸出需要、米国の低水準の在庫量から 6 ドル/bu 台半ばに値を上げた。

【4 月以降】

4 月に入り、米中西部での天候改善予報等から 6 ドル/bu 台半ばで推移。4 月半ばには、米国産の中国向け輸出需要や、ポーランド等がウクライナ産のトランジット（通過）を含め輸入を規制したこと等から 6 ドル/bu 台後半まで値を上げたものの、ブラジル産との競合等から 6 ドル/bu 台前半に値を下げた。

5 月に入り、黒海経由でのウクライナ産穀物輸出の期間を巡る合意の不透明感から、5 月上旬に 6 ドル/bu 台半ばまで上昇したものの、ブラジル産や米国産の豊作見通し、米国産の中国からの購入キャンセル等により 5 ドル/bu 台半ばに値を下げた。その後、米国中西部での乾燥天候予測等から値を上げ、5 月末現在、5 ドル/bu 台後半で推移。

6 月に入り、米国中西部での乾燥懸念、ブラジル産冬とうもろこしの収穫遅れ、ウクライナのダム決壊等から、6 月上旬に 6 ドル/bu 台前半に上昇。その後も米中西部で続く乾燥への懸念等から 6 ドル/bu 台後半に値を上げたものの、米国中西部の降雨予報による作柄改善期待、米国の作付面積予測が市場予想を上回ったことから値を下げ、6 月末現在、5 ドル/bu 台半ばで推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格の推移

●コメ：549 ドル/トン（前年同時期の価格：443 ドル/トン）

【価格は、タイ国家貿易取引委員会における 2023 年 7 月第 1 水曜日の FOB 価格。史上最高値：1,038 ドル/トン(2008 年 5 月 21 日)】

【1月～3月】

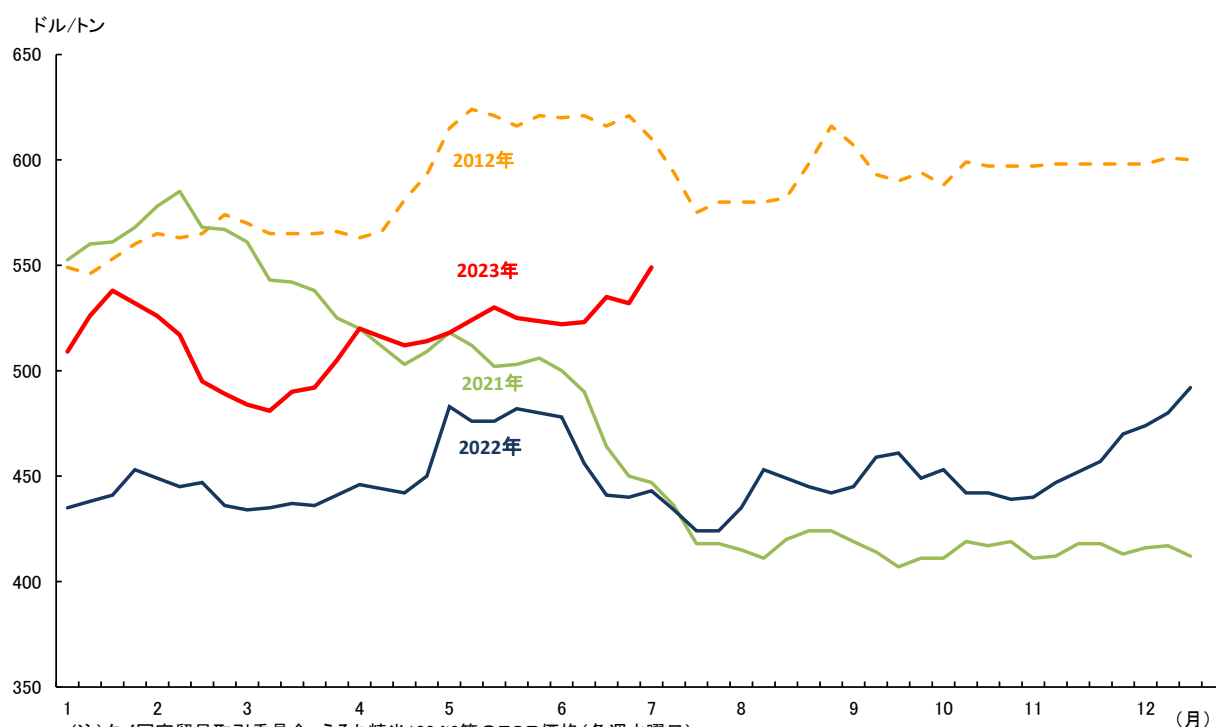
1月に入り、パーツ高や、インドネシアによる政府備蓄不足回復のためのタイ産の輸入増、中東諸国からの需要増により1月中旬に 530 ドル/トン台後半に値を上げたものの、タイ国内での新穀(乾季米)の流通による供給増加見通しや、パーツ安、多くの輸入国でタイの旧正月(4月)前に積み増した在庫が残っていること、低調な海外からの需要等から、3月上旬に 480 ドル/トン台前半まで値を下げた。その後、マレーシアやフィリピン等のアセアン諸国及び西アフリカ諸国の需要から、3月下旬には 500 ドル/トン前後に値を上げた。

【4月以降】

4月に入り、インドネシア政府による買付増加見込みや、アセアン・アフリカ諸国からの需要の継続等から、4月上旬に520ドル/トン台前後まで値を上げたものの、タイの旧正月による低調な取引等から値を下げ、4月下旬現在、510ドル/トン台半ばで推移。

5月に入り、アセアン・アフリカ諸国、特にインドネシア、フィリピン、南アフリカからの需要継続等から、5月中旬に 530 ドル/トン前後まで値を上げたものの、需要の軟化から値を下げ、5月下旬現在、520 ドル/トン台半ばで推移。

6月に入り、需要の軟化により一時横ばいで推移も、インドネシアからの需要の継続や、ベトナム産に比べ安価となったことによるイラク、フィリピンからの需要の増加、エルニーニョ現象で降雨不足が懸念される東南アジアの 2023/24 年度の生産見通しに対する懸念等から値を上げ、6月下旬現在、530 ドル/トン台前半で推移。



(注)タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格(各週水曜日)
グラフは、価格が高騰した2012年と直近3年の価格推移。

● 大 豆：14.86 ドル/bu （前年同時期の価格：16.26 ドル/bu）

【価格は、シカゴ商品取引所における 2023 年 7 月第 1 週末のセツルメント価格。史上最高値：17.71 ドル/bu(2012 年 9 月 4 日)】

【1 月～3 月】

原油相場の下落や世界的な景気減速等から 14 ドル/bu 台半ばに値を下げたものの、干ばつによるアルゼンチンの減産懸念等から 1 月中旬に 15 ドル/bu 台前半に値を上げた。同月下旬に、アルゼンチンの降雨予報、ブラジルの豊作予想等から 14 ドル/bu 台後半に値を下げたものの、2 月下旬にかけて、米国産の輸出需要増や、アルゼンチンの高温・乾燥による減産懸念や大豆粕価格の上昇、ブラジル主産地での降雨による収穫遅れ等から 15 ドル/bu 台半ばに上昇した。2 月末には、ブラジル産と米国産との輸出競争の激化懸念から 14 ドル/bu 台後半に値を下げた。

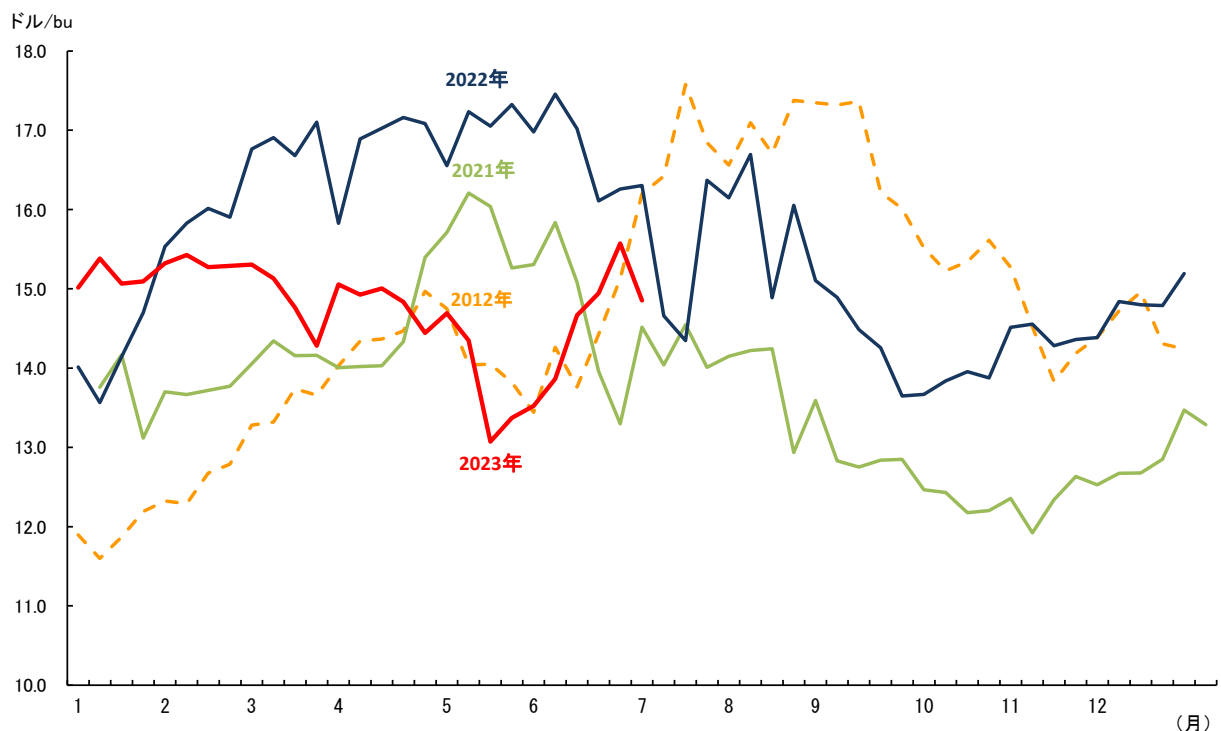
3 月初旬に、アルゼンチンの高温・乾燥による減産懸念や大豆粕価格の上昇等により、15 ドル/bu 台半ばに値を上げたものの、3 月下旬にかけ、ブラジルの豊作見通しと収穫進展による米国産の輸出減少懸念、原油安等から 14 ドル/bu 台前半に値を下げた。3 月末には、アルゼンチンにおける干ばつによる供給減少予測や、米国で作付意向面積が伸び悩んだこと等から 15 ドル/bu 前後に値を上げた。

【4 月以降】

4 月に入り、3 月末の米国農務省公表の作付意向面積及び四半期在庫が市場予想を下回ったこと、OPEC プラスの原油の追加減産の方針等を受け、4 月初旬に 15 ドル/bu 台前半に値を上げたものの、ブラジルの収穫進展等から 14 ドル/bu 台後半に値を下げた。その後、アルゼンチン産の低水準な生産予測等から 15 ドル/bu 台前半に値を上げたものの、ブラジルの豊作見通しや原油安等により 14 ドル/bu 台半ばに値を下げた。

5 月に入り、黒海経由のウクライナ産穀物輸出の期間を巡る合意の不透明感から、14 ドル/bu 台半ばまで値を上げたものの、米国産の豊作見通しや、ブラジル産との輸出競争の激化等から 13 ドル/bu 前後に値を下げた。その後、乾燥天候予報から 13 ドル/bu 台半ばに値を上げたものの、原油価格の低下等から値を下げ、5 月末現在、12 ドル/bu 台後半で推移。

6 月に入り、米国中西部での乾燥懸念、原油高等から、6 月中旬には 14 ドル/bu 台半ばまで上昇。その後も米国の作付面積予測が市場予測を下回ったことから値を上げ、6 月末現在、15 ドル/bu 台半ばで推移。



注：シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格（セツルメント）である。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
103.39	93.61	87.75	79.76	79.79	97.71	105.79	121.09	108.77	112.13	110.41
2019年	2020年	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
108.99	106.78	103.70	105.36	108.65	109.13	109.19	110.11	110.29	109.84	110.17
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
113.10	114.13	113.87	114.83	115.20	118.51	126.04	128.78	133.86	136.63	135.24
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
143.14	147.01	142.44	134.93	130.20	132.68	133.85	133.33	137.37	141.19	

出典： 為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行: 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	30.30	27.92	38.48	46.42
2019年	2020年	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
45.01	52.10	46.28	52.33	55.71	56.55	61.85	69.35	81.39	77.18	77.99
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
80.26	66.15	64.43	60.23	58.96	69.99	71.65	73.90	70.12	61.28	55.02
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
51.90	56.61	49.34	49.51	45.62	42.50	48.46	52.10	46.37	43.25	

出典： 米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC Grain Market Indicators」
年別は月別データの平均値。月別は、毎日価格の平均値。

3 原油価格(WTI:米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

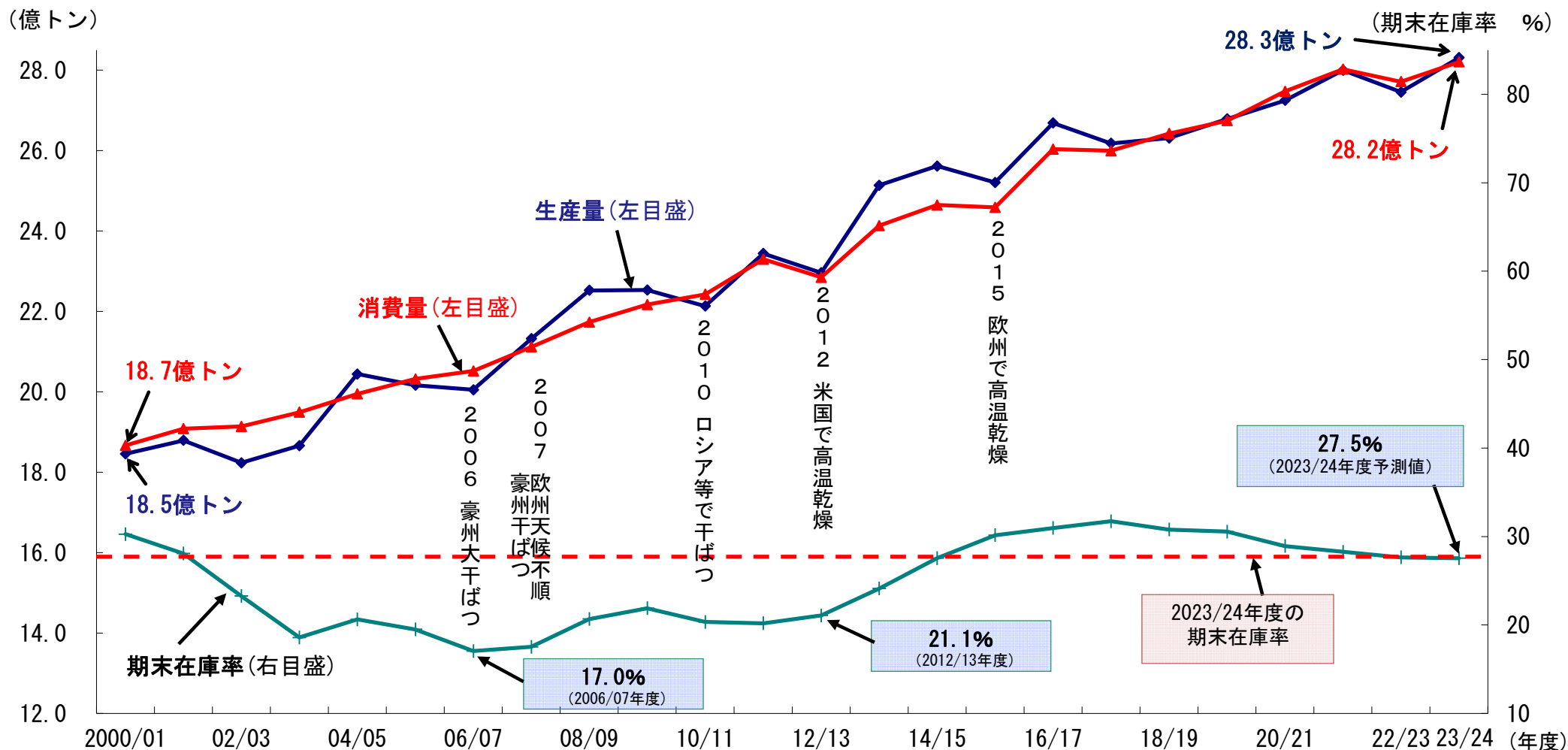
2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年
99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	48.80	43.32	50.95	64.77
2019年	2020年	2021年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
57.03	39.40	52.10	59.06	62.36	61.69	65.16	71.35	72.43	67.71	71.54
10月	11月	12月	2022年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
81.22	78.65	71.69	82.98	91.63	108.26	101.64	109.26	114.34	99.38	91.48
9月	10月	11月	12月	2023年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月
83.80	87.03	84.39	76.52	78.16	76.86	73.37	79.50	71.62	70.25	

出典： 内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ 月次アップデート」令和5年6月, 124頁
但し、2023年6月 は、米国エネルギー情報局(U.S.Energy Information Administration)「Weekly Petroleum Status Report」の日次データの平均値

穀物の生産量、消費量、期末在庫率の推移

- 世界の穀物消費量は、途上国の人口増、所得水準の向上等に伴い増加傾向で推移。2023/24年度は、2000/01年度に比べ1.5倍の水準に増加。一方、生産量は、主に単収の伸びにより消費量の増加に対応している。
- 2023/24年度の期末在庫率は、生産量が消費量を上回ったものの消費量が増加したことから前年度より減少し、27.5%。過去の価格高騰年の2012/13年度(21.1%)を上回る見込み。

穀物(コメ、とうもろこし、小麦、大麦等)の需給の推移



資料: USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」(July 2023)、「PS&D」

(注) なお、「PS&D」については、最新の公表データを使用している。